

参考資料

分類名〔果樹〕

参 14	モモ晩生品種「玉うさぎ」の果実特性
------	-------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

「玉うさぎ」は、本研究所における収穫期は「川中島白桃」に続く8月下旬から9月上旬である。平均果実重は約310gで同時期に収穫される「ゆうぞら」よりやや小さい。糖度は約15度と「ゆうぞら」と同程度である。果肉は白色に微かに紅色が入り、やや硬く溶質で緻密な食感。花粉を有しており結実は良好である。

普及対象：モモを導入する生産者
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

令和3年産特産果樹生産動態等調査における県内のモモの栽培面積では、中生品種「あかつき」が6割、晩生品種「川中島白桃」が1割で全体の7割を占める。8月下旬の「川中島白桃」で県内のモモの生産は終わりを迎えるが、近年は残暑が延長する傾向にあり、「川中島白桃」以降も高品質なモモの生産が可能となっている。

そこで、主要な晩生品種と同等に食味が優れ、県内での栽培に適する品種について検討したところ、「川中島白桃」に続いて収穫が可能で、モモ生産の拡大が期待される「玉うさぎ」が有望であると判断できたので、参考資料とする。

2 参考資料

- (1) 樹勢は中位、花芽の着生は中程度、花粉を有しており結実良好である。開花期は「ゆうぞら」と同時期であり、収穫期は「川中島白桃」に続き、8月下旬から9月上旬で「ゆうぞら」とほぼ重なる（図1、表1）。
- (2) 果実は「ゆうぞら」と比べて小玉傾向にあるが、果皮の着色は良好で裂果は無い。果肉は乳白から白で微かに紅色が入る。肉質は溶質でやや硬くて緻密、糖度や硬度は「川中島白桃」及び「ゆうぞら」と同程度の上品な食味。ミツ症の発生程度は小さい（図1、表2）。



図1 「玉うさぎ」の果実

3 利活用の留意点

- (1) 「玉うさぎ」は、山形県の種苗会社が「川中島白桃」と「ゆうぞら」の交配より選抜育成した晩生品種である。
- (2) 本研究所では開心自然形、無袋栽培である。
- (3) 結実良好なため、摘蕾及び摘果を適切に行うとともに、薬剤防除は適期に行う。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所花き・果樹部 電話 022-383-8134）

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

みやぎ独自の園芸生産技術の開発（令和元年～令和5年度）

(2) 参考データ

表1 検討したモモの生育状況（令和元年～令和5年）

品種名	樹姿	樹勢	花芽の 多少	花粉	生理的 落果	開花期			収穫期	
						始	盛	終	始	終
玉うさぎ	中	中	中	有	少	4/9	4/14	4/21	8/26	9/1
川中島白桃	中	や弱	や少	少～無	無	4/11	4/17	4/25	8/21	8/23
ゆうぞら	中	中	中	有	無～少	4/10	4/14	4/23	8/29	9/1

※各項目は5か年の状況・平均

※対照品種:「川中島白桃」、「ゆうぞら」

表2 検討したモモの果実特性（令和元年～令和5年）

品種名	果形	果実重(g)	玉揃い	果皮				果肉			
				地色	着色	粗滑	裂果	色	肉質(溶・不溶)	硬軟	
玉うさぎ	扁円	307.9	中～や良	乳白	中～や多	中～滑	無	乳白～白	溶	軟～や硬	
川中島白桃	扁円	445.6	や良～良	乳白	多	中～滑	無	乳白	溶	中	
ゆうぞら	扁円	352.8	や不良～良	乳白～白	少～多	中～滑	無	乳白～白	溶	中～や硬	

品種名	果肉		紅色素		糖度 (° Brix)	硬度 (kg)	渋味	品質	ミツ症程度	核	
	粗密	果汁	肉内	核周						粘離	核割れ
玉うさぎ	中～密	中～多	無～微	少～中	14.6	1.70	無～微	上	0.3	粘	0.2
川中島白桃	中	中～多	無～少	少～や多	14.9	1.54	無	上	0.7	粘	0.0
ゆうぞら	中～密	少～多	無～中	中	14.5	1.83	無	中～上	0.7	粘	0.1

※各項目は5か年の状況・平均

※果実品質調査は、育成系統適応性検定試験の調査項目に準じ、各年各品種5果ずつ実施

※対照品種:「川中島白桃」、「ゆうぞら」

(3) 発表論文等 なし

(4) 共同研究機関 なし